

Vol. 154

TIFA会報

外国人に日本語を教えるボランティア団体

Tachikawa International Friendship Association

立川国際友好協会発行

発行責任者 木下 究
編集責任者 的場正道ホームページ
<https://tifa-class.net/>

定期総会 懇親会 開催



5月27日(土)午後1時30分から柴崎会館1階多目的室に於いて、TIFA 定期総会が開催されました。コロナ感染症の5類移行に伴い、4年ぶりに平時に戻った総会となりました。会員総数58名のうち、出席者26名、委任状提出者29名を含め合計55名をもって、議案審議に必要な定足数が満たされました。

議長に橋本溪一さんが選出されたあと、定期総会資料に従い議事が進められ、提出された議案は質疑応答を経た上で、すべて全会一致で承認されました。また報告事項として、「記念誌編集部会の事業報告」及び「研修制度作業部会の活動報告」がなされました。

なお、今年度は会則17条7項により役員改選はなく、現役員が引き続き務めることになります。



総会終了後は、引き続き参加者による懇親会が開催されました。久しぶりのイベント復活を喜び、リラックスした雰囲気の中で進められました。

まず昨年と今年の新入会員の自己紹介が行われ、愉快的なスピーチが続きました。その後ソフトドリンクやナッツ、串団子を食べながら自由に歓談を楽しみました。約一時間の短い時間ではありましたが、今年度活動への思いと期待をみんなで共有しました。

柴崎学習館まつり すわっ祭

第46回「すわっ祭」にTIFAは今回初めて参加し、5月16日～28日の作品展と18日・20日の柴崎教室の公開教室を主催しました。

作品展では「TIFAの活動紹介・交流活動の写真展」や記念誌・会報などの展示、配布を行いました。受講生が制作した「一コマ漫画」や、えんがわサロンの子どもたちの「布絵」も展示されました。

公開教室の日は授業の見学会が行われ、講師希望の方などへの活動案内など多様な交流が行われました。



西砂教室 ハイキング

5月21日(日)ハイキングで野山北・六道山公園に行きました。実に三年半ぶりの野外活動でした。オンライン授業の受講生の中には初対面の方もいて新鮮な感動と驚きもありました。

散策コースには新緑の木々が茂り、都内の山とは思えない静けさがあります。道中かやぶき屋根の里山民家に立ち寄り、ゴールは六道山公園展望台でした。公園の広場では参加者が持ち寄った遊具でゲームをしました。特に印象に残るのは大縄跳び。連続で縄を飛ぶにはコツが必要で、汗をかきましたが楽しかったです。こうした授業を介さない交流もまた、教室運営には必要だと改めて思うところです。



リレーコラム 交差点

西砂教室 笠井 由美子 「ノープロブレム」の精神で

今、私が担当している受講生のプラナブさんはインドの人です。だからという訳ではないですが、20代後半で初めて訪れた外国が、インドだったこともあり、縁を感じて40年余り前のインド旅を振り返りました。

私は、プラナブさんが生まれる10年前にインドの風に触れており、大袈裟に言えば「インド人のプラナブさんの知らないインドを知っている」とも言えます。

しかし、こうも思うのです。インドは、今やグローバルなIT国家として知られています。プラナブさんもIT技術者だし、携帯電話も持っています。だけど、「生(ナマ)」のインドには、ヒンドゥ教もカースト

も生きており、歴史も文化も奥深いのです。故に「カオスの国」インドの現実とは、40年前と大きく変わっていないのではありませんか……と。



そんなことを考えながら、ニヤリとなるような旅エピソードを「ノープロブレム」で3つ。

インド人の得意な言葉は「ノープロブレム」です。街中でチャイ(ミルク紅茶)を飲みますと、前の客の使ったカップをバケツの水にサッとくぐらせただけのそれに、チャイをたっぷりと注いで「ハイ、どうぞ」と私の目の前に差し出します。驚いていれば「ノープロブレム」です。

小さな食堂に入るとメニューに「ビーフ」とありました。インドで「牛肉が食べられるのか」とワクワクしながら待っていると、目の前に出てきたのが、わら草履のような形状の肉でした。聞けば「バッファロー(水牛)」だということ。ここでも「ノープロブレム」と一言。

デリーでは、2〜3日毎に、宿を変えました。インドではタクシー料金は、乗車前に交渉して決めます。相手の言い値になってはいけません。しぶとく交渉を続けるのです。折り合いを付けてホッとして乗り込む。もちろん、エアコン設備などありません。走り始めて程なくすると、突然、路上で車が止まってしまいました。言葉もなく運転手さんが降りていきました。暫くすると、車のエンジンルームを開け、彼自らがバケツの水を掛けて、モーターを冷却していました。「大丈夫かなあ……」と言う私に「ノープロブレム」。

「カオスの国」の住人たちは、「もんだい無いですよ」と繰り返しながら、社会的格差(貧富の差・教育格差・多様な民族間の差・カースト制度)を乗り越えて生きていました。そして、おそらく今も尚。

木曜教室 山下 良子

日本語教室サポーターとして、最近思うこと

日本語がわからず、外国からやってきて、TIFA日本語教室で日本語を覚えながら、子育てをしていった何人かの女性たちと20年近くお付き合いをしてきました。



彼女たちは、自分自身の言葉を覚えるのと同時に、幼稚園、学校などの習慣、規則を手探りで学びながら子供を育てていきました。また、彼女たちは自分の育った国の言葉も子供に伝えていました。子供たちは母語(母親の言葉)と日本語、同時進行でした。それぞれ大変な時もあったようでしたが、親子共に努力して自分の道を見つけていったように思います。

今TIFAと「つばさ」(こども日本語教室)で、サポーターをしています。外国ルーツの母、父が母国の言葉や文化を日本で育つ子供たちにどのように伝え、子供たちはそれをどう受け入れながら、日本語を覚え生活していくのかと言うことが、外国ルーツの人たちが増えていくこれからの時代、大切なテーマになっていくのではないかと考えています。また日本人である自分自身も、日本に共に住んでいる彼らをどう理解し、受け入れていくのが良いのか考えていきたいと思っています。

これから外国ルーツの彼女、彼たちが自分たちの言葉や文化を紹介、発信していってくれることが、私たちの理解を助けてくれるのではないかと思います。また、そうしてくれることを楽しみにしています。

土曜教室 ボランティア研修会

6月24日(土)
柴崎学習館第一教室に於いて研修会が開催され、14名が参加しました。



今回は「意見交流会」の形式で、3グループに分かれて討議が行われました。総まとめでは、授業事例やツールの活用などについて活発な発表があり、講師のスキル向上につながる価値ある研修会になりました。

＜発表内容抜粋＞

- ・初級学習者向け作文練習に絵日記を活用した事例
- ・NHK オンライン「News Web Easy」の活用事例
- ・複数受講生との共通教材による協働学習の事例
- ・学習漫画を利用した授業事例

マダガスカル風の風 第2回

JICA 海外協力隊 塩入綾子



協力隊活動について

Salama! (サラマ!) こんにちは!

現在私は公立幼稚園を約5~6園、週ごとに巡回して活動しています。衛生面、文化、言語が違い戸惑うこともあります。子どもたちの手遊びがとてもかわいくて、毎回楽しみの一つです。

私の活動の目的の一つである「遊びから学びを浸透する」を理解してもらうため工夫しています。例えば、学びになるためのルールのあるゲームの紹介をしたり、教材の中に自然にあるものを取り入れて使ったりしています。

課題は、就学前教育を受けられない厳しい環境で生活している子どもたちが、平等に教育を受けられるようにすることです。その為に、私も巡回活動などを通じて、地域住民の保護者の理解を得る努力をしています。



手洗い活動



保育の様子



柔道隊員との合同イベント

家事労働・暮らしぶりについて

マダガスカルの家事労働について、マダガスカル人の主婦はいつも忙しい(Sahirana)と言っています。例えば、調理は木の枝や炭から火をおこして煮焚きします。洗濯は川や共同の水場まで行きます。あるいは井戸から水を汲みます。家庭には水道がなく、共同の水場でも断水があるので、生活用水のために水汲みをします。一般的には冷蔵庫がないので必



共同洗い場

要な時に必要な分だけ食品を購入します。買い物は店から離れた場所に住む場合も多くて、ひたすら歩くかバスに乗りま



マダガスカルの友人宅

す。確かに日常を過ごす為に家事の負担が大きいです。

私がマダガスカルで日々感じることは、日本のような安全な水を確保することが難しいこと。そして貧富の格差も大きく、安心して医療を受けられる人と貧困ゆえに厳しい現実を受け入れるしかない人が存在することです。このような状況をいつも切実に感じながら生活しています。

マジュンガ旅行(北西部港湾都市)



カメレオン



国立公園 シファカ

Manaraka indray! (マナラカ インジュライ!)
また、今度!

<次号に続く>

西砂教室 ミニ発表会兼親睦会

7月22日(土)西砂学習館に受講生16名、ボランティア講師12名が集まり「ミニ発表会兼親睦会」が行われました。受講生ほぼ全員が参加し、一人3~5分のスピーチをしました。



受講生のスピーチの内容は「愛犬のこと、日本映画、生活ごみの分別、故郷の紹介、家族のこと、来日の目的、日本の祭りの言葉」などバラエティーに富んでいました。初めての発表でかなり緊張している人もいましたが、それぞれのレベルでの精一杯の発表からは、みなさんの日本語に対する真剣な興味を感じ取ることができました。

親睦会では、飲食しながら互いに親しく会話を交わしました。普段は顔を合わす程度のみながら、一堂に会して交流できたのは、とても楽しく有意義なことでした。



たなばた まつり

土曜教室

7月1日(土)第一教室と作業室に於いて、七夕祭りが行われました。日頃の願いを短冊に記して一人ひとり声に出して発表し、夜の空に届けました。みんなで「たなばたさま」の歌を何度も輪唱し楽しく交流しました。また手品の披露もありました。

最後に安藤百福発明のチキンラーメンをお土産に受け取り、日本の風物詩や文化を大いに楽しみました。出席者はボランティア20名、受講生25名でした。



木曜教室

7月6日(木)七夕祭りが行われ、ボランティア18名、受講生19名が参加しました。コロナの規制も緩やかになり、全員が3階の作業室に集まることができ、楽しいひと時を過ごしました。

活動は2班に分かれて、笹に短冊を飾ったり、写真を撮ったり、歌を歌ったりしました。



願いの多くは幸せをテーマに書かれていましたが、本当は「七夕のお話」のように、もっとロマンチックなものもあるのでしょうか。最後に齋藤さんのリードで「たなばたさま」の歌を合唱しました。初めて歌った人も多くいて、日本の季節のイベントを体験してもらえたと思います。

土曜教室 座談会形式授業 地震

7月22日(土)第二回目の座談会形式の授業が行われました。参加受講生は16名、日本語能力別に3グループに分かれ、「地震」をテーマに討論を行いました。

地震に対する知識や経験、日頃の備え、発生時の対応などを各自発表しましたが、受講生にとっては、何よりも自身の日本語会話能力を試す絶好の機会となりました。



今後の学習に好影響をもたらす励みになるものと期待しています。
(詳細記録 HP 掲載)

お好み焼き パーティー

7月23日(日)柴崎学習館調理室にて、企画渉外部主催のお好み焼きパーティーが行われました。ボランティア15名、受講生



約20名



が参加し、材料の処理・こしらえを行い、お好み焼き作りに挑戦しました。5テーブルに分かれて調理しましたが、それぞれ特徴のある形と味を

作り出し、競うようにしてお昼の食事を楽しみました。

久しぶりの全体活動で、賑やかに談笑しながら、満腹感と幸福感に満たされ、真夏の暑さを吹き飛ばしました。



木曜教室 ランチパーティー

7月27日(木)1学期最後の授業の後、柴崎学習館調理室にて、4年ぶりにランチパーティーが行われました。参加者は、ボランティア、受講生、子どもなど合わせて約27名。コロナの関係で、母国の家庭料理を持ち寄ることは叶わなかったものの、初めて顔を合わせる人とも話が弾み和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。



会長の挨拶に続き、ボランティアと受講生の自己紹介がありました。普段、二つの教室に分かれているため、交流の機会が持てない仲間の顔を見て、声を聞いて、大切な交流の機会になりました。



ホームページ勉強会

6月10日(土)、7月15日(土)柴崎学習館第2教室にて、人材育成を図り多様なニーズに対応するため、ホームページ勉強会が開催されました。参加者は9名、小林副会長が講師を務めました。



立川国際友好協会



西砂教室

